

## ISOM'21 報告

ISOM は、1985年にスタートした SOM (Symposium on Optical Memory) を母体に 1987年から継続的に開催されている国際学会であり、2017年からは、新しい領域への展開を反映して正式名称を International Symposium on Optical Memory (ISOM) から International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory (ISOM) に変更している。ISOMの研究発表分野は、光メモリをはじめ、イメージング、センシングを含む幅広い領域にわたっており、各領域の研究者が最新の研究成果を紹介する場となっている。

ISOM'21 は、当初は神戸商工会議所での実地開催とオンラインを併用したハイブリッド開催の予定であったが、緊急事態宣言の影響により昨年度と同じく完全オンラインでの開催となった。会期は10月3日(日)～10月6日(水)の4日間であった。弊協会は ISOM スタート時からのスポンサーであり、今回も共催団体として小谷副理事長・専務理事らが参加した。

ISOM'21 の参加者数は 100 名であり、昨年度とほぼ同数の参加者が集まった。発表件数は昨年度より若干少ない 74 件であり、このうち招待講演 (Keynote、特別招待講演も含む) が 19 件、応募論文が 31 件 (ポストデッドラインペーパーを含む)、ポスター発表が 24 件であった。また日本からの発表の他に、中国、韓国、英国、香港、台湾、シンガポールを含む海外からの発表が 19 件あった。

Keynote としてジャパンディスプレイ社の滝本氏による “An imager for vital signal measurements and biometric authentication” と題した講演が行われ、また恒例となっている特別招待講演としてマイクロソフトリサーチ社の坂倉氏による “Next-generation cloud storage in glass” と題する講演が行われた。またショートプレゼンテーション (前半) とブレイクアウトルームに分かれての議論 (後半) を組み合わせたポスターセッションや、オンライン Banquet が開催される等、参加者間のコミュニケーション向上のための工夫が凝らされており、最新の技術動向や最先端の研究成果について活発な討議が行われた。

ISOM'21 国/地域別参加者数

日本	中国	韓国	英国	香港	台湾	シンガポール	合計
81	8	3	3	2	2	1	100

ISOM'21 国/地域別発表件数

日本	中国	韓国	英国	香港	台湾	シンガポール	合計
54	11	4	1	2	1	1	74

今後も ISOM は、光メモリをはじめ、イメージング、センシングを含む幅広い技術領域における最新の研究成果発表、技術交流の場として、技術・研究の発展に貢献していくことが期待されている。次回の ISOM'22 ([https://isom.jp/PDF/ISOM22\\_First%20Call%20for%20Papers.pdf](https://isom.jp/PDF/ISOM22_First%20Call%20for%20Papers.pdf)) は、札幌市の札幌コンベンションセンターにおいて 2022年7月31日(日)～8月3日(水)の会期で開催される予定である。



ISOM'21 オンライン会議参加者集合写真